

株式会社 そごう・西武

お問い合わせ先

コーポレートコミュニケーション室 CSV推進担当

郵便番号 171-0022

東京都豊島区南池袋1-18-21 西武池袋本店書籍館

電話番号 03-6741-2812 FAX 03-6741-2814

(株)そごう・西武のサステナビリティ

<https://www.sogo-seibu.co.jp/sustainability/index.html>



CHOICE

FOR THE



FUTURE



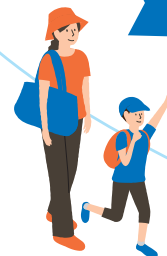
SOGO & SEIBU サステナビリティアクション

2022-2023



本冊子は、印刷工程で有害廃液を出さない水なし印刷、VOC(揮発性有機化合物)ゼロの植物油インキ、見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォント、FSC®森林認証紙を採用しています。ライフサイクル全体で排出したCO₂を、カーボンフリーコンサルティングを通じてオフセット(相殺)しています。

お願い 本冊子をご不要になった際は、再資源化のため、お住まいの地域のルールでリサイクルくださいますようお願いいたします。



「人」がつなぐ希望。 「人」がつくる未来。

経験をしたことのないパンデミック。

世界中の歯車が狂い始めた紛争。

今までの当たり前は、当たり前ではなくなりました。

世界が目まぐるしく変わっていく中で、

私たち、そごう・西武も変わり続けなくてはなりません。

しかも、そごう・西武らしいやり方で。

ところで、私たちがそごう・西武らしさについて語るのは、
場所でも物でも、ましてや過去の歴史でもなく、
実は今、そごう・西武にいる「人」なのです。

私たち一人ひとりが想う、希望や未来へのご提案を、
積み重ねて。さらに、積み重ねていくことで、
次世代に続く百貨店をつくっていきたいと思います。





街中で訓練中の盲導犬

「人」がつなぐ希望。

誰もが日々の暮らしを楽しめる社会をつくりたい。
いつの間にか自分のライフワークになっています。

20年間続く盲導犬育成支援活動の特徴は、お客さまと従業員が一緒に取り組んでいることです。全店舗で盲導犬をかたどった大型の募金箱を常設するほか、視覚に障がいのある方や盲導犬へのご理解を深めていただくために、定期的に「盲導犬キャンペーン」を開催しています。また、任意で従業員が毎月の給与から自動引落で積み立てる「ワンコイン倶楽部」で募金を行い、全国の盲導犬育成団体に寄付しています。

このような活動は、多くの人を巻き込めばもっと大きなものになるのではないかと思います。そごう千葉店では隣接する鉄道会社3社にお声がけし、2018年と2019年に合同の対応訓練と募金活動を行いました。また社員食堂とも連携し、金額の一部が寄付になるメニューのご提案など、いろいろと楽しく工夫を凝らしています。今後は地元の学生ボランティアの皆さんなどにも活動の輪を広げていきたいと思っています。



岡本 恵
そごう千葉店
教育推進担当 コンシェルジュ

盲導犬育成支援活動 20年間の取り組み

そごう・西武の盲導犬育成支援活動は2003年にスタートしました。従業員はもとより、お客さまや地域の方々にもご参加いただき、視覚に障がいのある方と盲導犬へのご理解を深めていただく活動を継続して進めています。



盲導犬型大型募金箱

盲導犬をかたどった大型募金箱を各店で常設しています。各店で活躍するこの26体の募金箱にはそれぞれ名前が付けられていて、お客さまにも可愛がっていただいています。



新入社員の募金活動

各店で開催される「春の盲導犬キャンペーン」では、新入社員による募金活動を実施。そごう・西武の一員として、入社後初めての社会貢献活動を体験します。



スマホで募金活動

2020年9月から、お買い物などでマイルが貯まる無料アプリ「セブンマイルプログラム」での募金受付がスタート。ご自宅にしながら募金活動にご参加いただける新しいタイプの募金活動です。



盲導犬キャンペーン

各店では年2回、お客さまに向けたキャンペーンを開催。アイマスクを着けた盲導犬歩行体験などを実施し、視覚に障がいのある方と盲導犬へのご理解を深めていただいています。



盲導犬搬送用の車両を寄贈

2008年には日本盲導犬協会に盲導犬搬送用の車両を2台寄贈しました。犬の足あとがデザインされた車体には「WE SUPPORT GUIDE DOGS (わたしたちは盲導犬を援助します)」のメッセージとともに、そごう・西武のロゴマークが描かれています。



盲導犬受け入れセミナー

従業員を対象に、定期的に視覚に障がいのある方や盲導犬ユーザーへの正しい対応を学ぶセミナーを開催。座学研修後、視覚に障がいのある方への誘導の仕方などを学びます。



「人」が **つなぐ** 希望。

お客さまとの会話を楽しみながら、無理をしない環境活動を心がけています。

2009年からプレゼントギフトが植樹・育樹につながる「グリーンラッピング」を行っています。これは税込100円の有料ラッピングで、その内の50円が認定NPO法人環境リレーションズ研究所への寄付となり、80件で1本分の植樹になります。ほかにも、お中元やお歳暮ギフトの簡易包装は4,000件。お買い物袋のご辞退は1万枚の削減で、それぞれ1本分の植樹につながっています。

新入学やご出産のお祝い、ちょっとした感謝の贈り物など、さまざまなご用途での承りが多い商品券売場では、従業員が季節や



用途にあわせたグリーンラッピングの飾りを手づくりしています。また、形式的にならない「ひと言短冊」をご用意してお客さまのご要望にもお応えしています。「かわいい」とか「たのしい」が入口になって、それが環境活動につながるっていいですね。



山本 素子
そごう千葉店
商品券売場



サッカーが楽しめるようになった、靴を履いているこどもたち

「人」が **つなぐ** 希望。

いろんな立場の人がやさしさをリレーする。
こんなに素敵なことってないですね。

アフリカ ザンビア共和国のこどもたちは、裸足の生活のために寄生虫病や破傷風にかかり命を落とすことがあります。このようなこどもたちのために、2009年から各店に「こども靴下取りコーナー」を常設し、お客さまから使わなくなったこども靴をお預かりしています。お預かりしたこども靴は、国内輸送を浪速運送(株)、海外輸送をオーシャン ネットワーク エクスプレス ジャパン(株)にご協力いただき、国際協力NGOジョイセフの現地スタッフによりザンビアのこどもたちに届けられます。靴をお持ちいただいたお客さまのやさしいお気持ちをいろいろな人がリレーして、お届けした靴は2020年に100万足を突破しました。10年前にお届けした靴を履いたこどもたちが、どんな大人に育ったんだろう。そんな想像をするとわくわくします。



今本 希美
西武池袋本店
こども用品・キッズキャラクター係

※ お預かりしたこども靴1点につき、こども服売場での買いあげ税込5,000円ごとに1枚ご使用いただける「500円割引券」とお引き換えしています。

労働組合活動の一環として、従業員ボランティアによる植樹を実施





海ごみゼロを目指し地域メンバーとともに宮島包ヶ浦自然公園の清掃活動に参加

「人」が **つなぐ** 希望。

地域の一員として一緒に社会課題を解決したい。
人が集まる百貨店にできることは
まだまだあると思うんです。

ライフスタイル提案と言われて久しいですが、その編集に欠かせない要素のひとつが「サステナブル」だと感じていました。ちょうど同じタイミングで、そごう広島店が海ごみゼロを目指す広島県の官民連携プラットフォームに参加したことが大きなきっかけです。参画の行政やさまざまな業種の皆さまが、同じ目的に向かってとても素晴らしい取り組みを行っているんです。そこで、それぞれの取り組みを発信する場所として、毎日多くのお客さまがご来店される百貨店を使っていただきました。心がけたのは「百貨店だからと遠慮しないで思い切り楽しんで」という点です。活動はまだ始まったばかりですが、どんどんと楽しい仲間が広がり、新たなつながりが思いもよらない副産物を生み出していき。また、お客さまに伝播し環境活動に対する意識が変わり始める。それこそが街の中心にある百貨店の役目ではないかと思っています。



村上 智紀
そごう広島店
ミライ価値・DX担当

官民連携による「海洋プラスチックごみゼロ」に向けた取り組み

広島県は「2050年までに瀬戸内海に新たに流出するプラスチックごみゼロ」を目指し、2021年6月に、官民連携による「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム」を設立しました。この取り組みが、環境省「令和4年度 ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業」の実施自治体として採択されたことを受け、2022年10月に、そごう広島店各階で海ごみゼロに向けた啓発活動や情報発信を実施しました。



みんなで作ろう。ミライへ、美しく暮らすための瀬戸内海
2050輝く
GREEN SEA
瀬戸内
ひろしま
宣言
2022 SHIMANO GREEN SEA
SETOUCHI HIROSHIMA
DECLARATION

海洋ごみを使ったワークショップを開催

広島を拠点に活動し、瀬戸内海で回収した海洋ごみからアート作品を生み出すアーティスト 有田大貴さんが、親子で楽しむアップサイクルのワークショップを開催。



こどもたちによるSDGsアート作品の展示

広島市中区にあるYMCA国際幼児園のこどもたち約130名が、それぞれ海の中の世界を想いながら力を合わせて創り上げた作品「アンダーザシー」を展示。



プラスチック容器を売らない量り売りコーナー

プラスチックごみ削減を目的に、シャンプー、トリートメントなどの量り売りを実施。会場ではユニリーバ製品の使用済みプラスチック容器の回収ボックスも設置しました。



使用済み懸垂幕をバッグにアップサイクル

仕様変更などで廃棄される車のシートなどから新たな製品を生み出す企業「BUChy」が、そごう広島店の外壁に掲出していた懸垂幕をアップサイクルして作ったバッグを販売。

「人」がつくる未来。

百貨店の編集力とデジタルを掛け合わせることで、新しい百貨店をつくりたい想いを実現させました。

2021年9月、西武渋谷店にオープンした「CHOOSEBASE SHIBUYA」は、地球環境に寄り添った商品や、社会課題に取り組むブランドを中心に扱うメディア型OMOストア*です。売場のコンセプトは“意味に出会い、意志を買う”。「気付き」「賛同」「応援」などを入口に、「モノ」に込められた想いや「ヒト」のストーリーを発信し、新たなブランドと新たな世代のお客さまがつながる場になることを目指しています。また、いわゆる「売らない店」とは違い、「CHOOSEBASE SHIBUYA」では、店頭とECの在庫をリアルタイムで連動することで、店頭で見つけた商品をあとからでも買やすいスタイルを構築しました。百貨店に連綿と受け継がれる編集力とECの世界を融合させることで、これからも多くの方に新しいお買い物体験を楽しんでいただける売場をつくっていきたく思います。



伊藤 謙太郎
CHOOSEBASE SHIBUYA
ディレクター

* OMOストア=店頭とECで顧客・商品・在庫情報が統一されたストア形態



「人」がつくる未来。

いま、時代が求めているお買い物ってなんだろう？ 始まりは自分たちが感じる疑問からでした。

多様化するお客さまの生活パターンに対応し、そごう・西武では2021年にメンバーズサービスを一新しました。カードを主とした従来のサービスを、「クラブ・オン/ミレニアム アプリ」に集約しバージョンアップ。1回コードをスキャンするだけで、ポイント加算もクレジット決済も可能な非接触かつスピーディーなお会計をはじめ、在宅でもお買い物を楽しめるリモートショッピング機能を追加。さらに誕生月のポイントサービスは、お客さまご自身で設定する記念日サービスに変更するなど、お客さまの気持ちに寄り添うサービスとして好評をいただいています。

とはいえ、今回の改変はまだ緒についたばかり。いずれは便利な機能だけではなく、そこにもっと人間味を加えることで、そごう・西武のファンを増やしていきたいと思っています。



岩崎 祥太
顧客戦略部
顧客マーケティング担当



西武渋谷店では廃棄予定の懸垂幕をバッグにアップサイクルし販売

「人」がつくる未来。

従業員から寄せられたアイデアは5年間で1,739件。
これはまさに、そごう・西武の財産です。

アメリカの経営学者マイケル・ポーター氏らが2011年に提唱したCSV (Creating Shared Value: 共有価値の創造)。もともと盲導犬育成支援などの社会貢献活動を長く続けておりましたので「CSR」という概念は従業員にも根付いていましたが、「さあ、これからは会社の利益にもつながる社会貢献活動を推進しよう」と言ったところでみんな何をやれば良いのかわからない。そこで、まずはこの考え方を浸透させるために、2017年にスタートしたのが「CSVアイデアコンペ」です。これは全従業員を対象に毎年1回、各々が日ごろ感じている社会課題を解決すると同時に、百貨店の価値を高めることができるアイデアを募集するもので、2021年までの5年間で1,739件のアイデアが集まりました。その中には実現したアイデアもあり、新しい百貨店づくりのヒントになっています。



黄木 善治
コーポレートコミュニケーション室
CSV推進担当

地域のハブとして、さまざまなステークホルダーが つながる仕組みや場所を提供

CSVアイデアコンペに限らず、私たちは日ごろからお客さまの不便、不安、不満など、さまざまな「不」の解消につながる取り組みについて考えています。百貨店のみで完結することは限られていますので、実現に向け多くのパートナーの皆さまにご協力いただいています。



再開発工事中の駅周辺の活性化につなげたい

西武福井店では、地元公共交通機関4社と連携し、店内で税込2,000円以上お買いあげのお客さまに、帰りの乗車運賃が100円引きになるチケットを期間限定でプレゼント。運転免許を返納した高齢者の来店促進にもつながる取り組みとなりました。



バレンタインで途上国の女性を応援したい

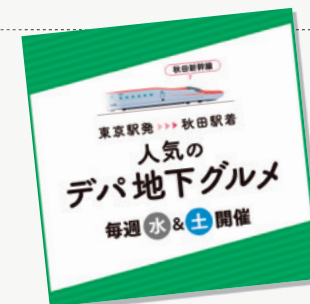
2020年のバレンタインでは、そごう・西武限定の寄付付きチョコレートの販売。売上の一部はブランドを展開するジェイ・ワークス㈱との折半で、国際協力NGOジョイセフに寄付され、途上国の女性支援に役立てられました。



視覚障がいの方にお買い物を楽しんでほしい

西武池袋本店では、視覚に障がいのあるお客さまをアテンドする際に、商品の色や形をご自身で確認できる新技術[®]を活用。百貨店での買い物をお楽しみいただけるサービスの提供を試験的に始めています。

※ 株式会社QDLの「RETISSA Display II」を活用(医療機器ではありません。)



東京のデパ地下グルメを秋田にお届けしたい

西武秋田店では、ジェイアール東日本物流が提供する即日お届け列車便「はこピュン」を活用し、秋田新幹線でお弁当や和菓子などのデパ地下グルメを輸送し販売。お客さまのご要望にお応えするとともに、貨客混載によりCO₂排出量の削減にもつなげています。

私たちが、もっとも大切にするのは
「今までにない提案」です。

お客さま自身も気付かなかった
「想像を超えた自分」に出会っていただく。
しかも時代に合った方法で。

私たちのご提案で、お客さまの表情が、
またたく間に明るくなる。

その瞬間に立ち会うために、
私たちは心を尽くすのです。

想像以上の提案で、
お客さまに発見を。



そごう・西武の環境方針

環境方針

基本理念

私たちは、企業市民として社会的責任を自覚し、環境・社会・経済が一体となった事業活動を通じ、お客さまやお取引先、地域とともに、「次世代に続く豊かなくらしづくり」に取り組みます。

行動指針

1. 私たち自身の環境保全活動に加え、当社の事業活動を通じて、お客さまやお取引先の活動にも良い環境影響を及ぼすように努めます。
2. ①環境に配慮した品ぞろえやイベント、セミナーなどを通じたお客さまとのコミュニケーション強化
 ②社会貢献活動などを通じた地域、社会とのコミュニケーション強化
 ③地球温暖化防止対策や廃棄物の削減、リサイクルの推進などによる環境負荷の低減と環境保全の推進
 ④環境教育の継続による法令順守とリスクマネジメントの徹底
 以上の活動を重点に、仕組みや手法の継続的な改善に取り組みます。
3. 従業員に対する継続的な教育と啓発活動を行い、一人ひとりが環境や社会問題に自発的に取り組むことにより、お客さまや地域社会に役立ち、信頼される企業を目指します。
4. 挑戦的な目標を設定し、一人ひとりが達成に向けた活動を実践しながら、結果の検証と改善を繰り返し、システムの向上を心がけます。

この環境方針は、従業員と当社のために働くすべての人に周知するとともに、一般の方々にも公開します。

2016年10月6日
株式会社そごう・西武
代表取締役社長 林 拓二

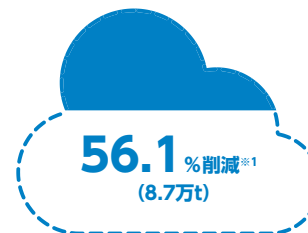
ISO 14001に基づき環境マネジメントを推進

そごう・西武は、1999年に西武全店で百貨店業界として初めて環境に関する国際規格ISO 14001の認証を取得しました。その後、2011年にはそごう全店に拡大し、現在はそごう・西武全店および全事業所で認証を取得しています。各店・各事業所では環境・社会貢献委員会を組織。社長が宣言した環境方針の達成に向け「次世代に続く豊かなくらしづくり」に取り組んでいます。



そごう・西武の環境目標・2021年度実績

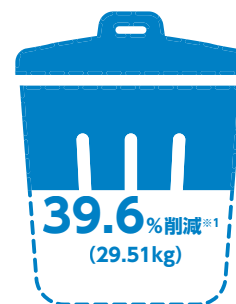
CO₂排出量



2050年目標
CO₂排出量 **ゼロ** / 再生可能エネルギー **100%**

既存照明のLED化をはじめ、新技術を用いた設備システムの導入により省エネを推進。また自社の排出量(スコープ1+2)のみならず、スコープ3を含めた全体での削減を目指しています。

食品廃棄物の発生原単位^{※2}

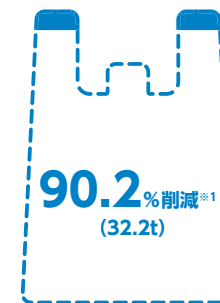


2050年目標
食品廃棄物の発生原単位 **75%削減** (2013年度比)

食品売場での発注精度向上に加え、レストランでは食べ切りや少量サイズメニューのご提案を推進しています。

※1 2013年度比
※2 発生原単位：食品関連売上100万円当たりの食品廃棄物発生量

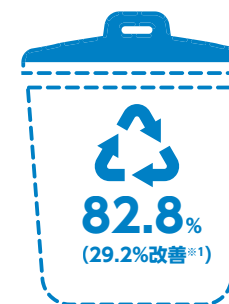
プラスチック製お買い物袋使用量



2030年目標
プラスチック製お買い物袋使用量 **ゼロ**

2020年7月からのレジ袋有料化義務化以降のお客さまのご理解とご協力により、プラスチック製お買い物袋のご辞退率は80%を超え大幅な削減につながりました。

食品リサイクル率



2050年目標
食品廃棄物のリサイクル率 **100%**

食品廃棄物の堆肥化やバイオエネルギーへの転換、サーマルリサイクルなど、各店ごとに食品リサイクルへの取り組みを実施しています。

数字で見るそごう・西武

環境・社会貢献への取り組み

植樹・育樹

全国9カ所の地域に植樹した本数
2009年9月～2022年8月累計

18,703本



ザンビアへの子ども靴寄贈

お客さまからお預かりした子ども靴
2009年9月～2022年8月累計

110万**2,232**足



盲導犬育成支援

お客さまからお預かりした募金と従業員からの募金
2003年3月～2022年8月累計

7億**889**万円



災害支援

「令和4年ウクライナ難民緊急支援募金」

334万**7,402**円



地球環境基金

オリジナルエコバッグの販売収益の一部を、
独立行政法人環境再生保全機構(地球環境基金)に寄付
2001年～2022年累計

753万**3,000**円



ホワイトリボン運動

栄養不足や不十分な保健医療サービスなどで、命を落とす途上国の母子を救う活動に賛同



ホワイトリボンピンバッジ販売の収益を寄付
2001年～2021年累計

313万**2,700**円

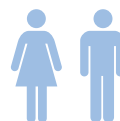
各店設置の飲料自動販売機売上の一部を寄付
2001年～2022年8月累計

106万**2,795**円

従業員数

2022年2月末

4,549名



営業収益

2022年2月期

4,470億円



女性管理職比率(係長級以上)

2022年2月末

34.3%



障がい者雇用率

2022年2月末

2.50%



男性育児休業取得率

2021年度

50%



店舗数

2022年8月末

10店舗



西武店舗

池袋本店 渋谷店 所沢S.C 東戸塚S.C
福井店 秋田店

そごう店舗

横浜店 千葉店 広島店 大宮店

年次有給休暇取得率

2021年度

37.4%



認知症サポーター養成講座受講者数

2010年～2022年2月累計

5,148名



eco検定(環境社会検定試験)®合格者数

2014年～2022年8月累計

631名

